

しまなみだより

第17号 2021年10月発行



秋麗の候、皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。平素より本学の教育にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

今年度4月から、保健福祉学科5コース（看護学、理学療法学、作業療法学、コミュニケーション障害学、人間福祉学）の新たな体制で新カリキュラムがスタートしています。記念すべき開設初年度の看護学コース1年次生は、61名を迎えております。チーム医療や地域包括ケアの時代のニーズに応える高度な専門性と協働力を兼ね備えた人材育成を目指し、教員一同気持ちを新たにしております。引き続き、保護者の皆様のご支援を頂きますようお願い致します。

今号では、令和3年度前期の学生生活の様子をお知らせします。

(看護学科／看護学コース広報係)



新入生オリエンテーションセミナーが開催されました

令和3年4月29日（祝日）に、新入生オリエンテーションセミナーが三原キャンパスにて開催されました。看護学コースだけでなく、保健福祉学科各コースの新入生と、学生自治会3年生、教職員が参加しました。

はじめに、三原警察署による防犯対策の講義で、生活上の注意点や護身術を学びました。

防犯講習（三原警察署、広島県警察）

最初はやや緊張気味だった学生たちも、後半はコースを超えて編成された班に分かれてレクリエーションを楽しみました。短い時間でしたが、新入生同士で交流をし、看護学科所属の自治会の先輩に相談する機会を得ることができました。



自治会によるレクリエーション



ハイブリット授業形態（オンラインと対面の併用）のため、対面での学生間交流が少ない現状ですが、講義や学生生活の中で、コースを超えた交流が生まれることも、本学の魅力の一つです。これからも仲間と一緒に支え合いながら、有意義な学生生活を過ごされることを願います。

(土路生明美)

学生表彰

県立広島大学では、学術研究活動や課外活動に積極的に取り組み、特に優れた業績を挙げた学生を対象に、学生表彰を行っています。今年度、看護学科では3年生6名、4年生6名が学業成績優秀者として表彰を受けます。今回は、3年生齋藤さんと4年生池田さんのコメントをご紹介します。

学業成績優秀者 (敬称略)

3年生	齋藤 志帆	4年生	池田 鈴香
	岡本 穂香		川辺 若奈
	穂山 美侑		上木 桃香
	平戸 乃愛		小山真渚美
	大江 志穂		桧浜 美羽
	増田 桃子		杉原 佑果



3年生
齋藤 志帆さん

今回、学生表彰をいただきありがとうございます。受賞できたことを嬉しく思います。私は、1年生の時から目標を持って課題や自己学修に取り組んできました。2年生以降は、新型コロナウイルスの感染拡大で、対面授業や友達と一緒に勉強する機会が減ってしまい、最初はオンラインでの学修が難しいと感じることもありました。時間の使い方などを工夫しながら学びを深められるよう努力しました。後期からの領域実習には少し不安を感じる部分もありますが、これまで学んだ知識や技術を活かし、主体的に頑張っていきたいと思います。



4年生
池田 鈴香さん

学生表彰に選ばれ、今までの学びが形になっていたのだと感じ、嬉しく思っています。これまで、看護計画に苦戦したり、課題のやりくりがうまくいかず悩んだりすることもありました。しかし、看護知識や技術を学んだり、新しい看護について知ったりすることはとても楽しく、日々充実していると感じています。ここまで勉強することができているのは、先生方や友人、そして家族の助けがあったからです。支えてくださった方に感謝しながら、今後も学びを深めていきたいです。

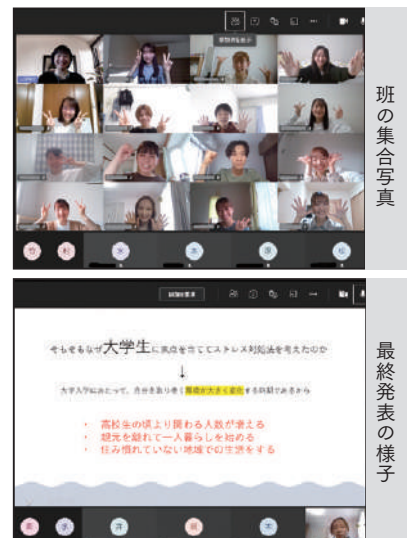


1～4年生の授業紹介

1年生 大学基礎セミナーⅠ

この科目は保健福祉学科全コースの1年生を対象に、学修に必要な知識・技能や主体性を身につける目的で、1クォーターで開講しています。コースの枠を超え13の班に分かれ、授業の受け方、レポートの書き方、発表の仕方等を学びます。

指定のテーマから自分で目的を見つけ、資料を調べ、考察するという主体的な一連の学修過程を体験しました。オンライン上でのディスカッションとなりましたが学生は笑顔が多く、活発な意見交換がなされました。最終授業は各自がまとめた内容を発表しました。「最初は緊張したけど、勉強のイメージがついた」「毎週、同じメンバーに会えることがだんだんと嬉しくなった」と授業の感想を述べ、この授業が学修だけでなく学び合う仲間をつくるよい時間となったようです。医療職は多職種連携が必須となります。この体験をこれからの学生生活や社会人となっても役立ててほしいと思います。(山田隆子)



班の集合写真

最終発表の様子

2年生 診療に伴う看護方法論

この科目は、診療（診察・治療・検査）に伴う「安全」で「的確」な看護技術を修得すると同時に、対象者の心身に及ぼす影響を理解した上で看護の役割を考えることを目指しています。昨年度から続くコロナ禍の影響でハイブリッド型の授業形態が続いていますが、酸素吸入や種々の注射法、静脈血採血の看護技術は、大学に来て実習室で演習を行うことができました。

注射や静脈血採血は痛みを伴う看護技術ということもあり、緊張した面持ちで取り組んでいましたが、安全で的確に実施できるよう事前に看護技術の動画を何度も視聴し、演習に臨んでいました。最終回の技術演習では、限られた時間でより多くの学びを得ようと真剣に演習に取り組んでいました。2年次生は9月に基礎看護実習Ⅰを控えています。様々な科目で学修した知識と技術を自分の糧にして、今後も頼もしく成長してほしいと感じています。（吉田和美）



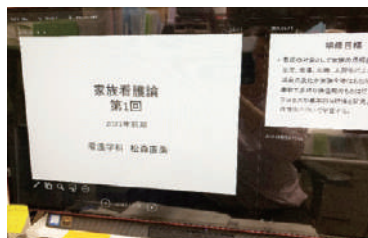
採血の演習場面



薬剤の準備場面

3年生 家族看護論

家族看護論（3年次・前期）は、15時間（7.5コマ）の選択科目です。



初回の講義では、「家族とは何か」について考え、看護の対象として様々な家族のとらえ方があることから学修しています。また、家族看護の諸理論を学びながら、事例検討では、入院や在宅で療養している家族員の変化が家族全体にもたらす影響は何かをアセスメントし、家族看護の具体的な実践方法や関わり方について考えています。今年度はオンライン授業となり、画面を通して家族と看護師とのやりとりをシナリオに沿って学生たちで演じ、その場面についてグループで話し合ったことを発表しました。



特別授業では、病院で活躍している家族支援専門看護師を講師としてお招きし、専門看護師の役割と看護の実際について紹介していただきました。学生から「看護をしていく上で患者に重点を置きがちだが、家族への看護も重要であるということがとてもわかりました。」などの感想が聞かれました。（松森直美）

4年生 精神看護実習

精神看護実習は、「精神疾患患者とその家族を総合的に理解し、日常生活の自立に向けて、患者の個別性に応じた看護を実践できる基礎的な能力を身につけるとともに、精神疾患患者の地域移行支援と地域生活支援の実際を学ぶ」という目標に沿って展開しています。現在、精神科の看護も身体疾患の看護と同様に入院期間が短縮され、患者が地域で安心して生活が送れるように支援することが求められています。病棟から切れ目のない看護を行うために、地域生活移行、地域生活継続に向けて、病棟から地域へと継続した看護を学んでいます。精神科病棟、地域生活継続支援B事業所、精神科デイケア、精神訪問看護での実習を通じて、患者とのコミュニケーションを図りながら他者理解、自己理解を深めて幅広い視点で精神看護実習をしています。（井上 誠）



コロナ禍で、感染対策をしながら無事に終えました。暑いなかよく頑張りました。学生の笑顔が物語っております。

Webオープンキャンパス

今年のオープンキャンパスは、新型コロナウイルス感染症の影響で、参加者に来場してもらい開催することが叶わず、オンライン（リアルタイムとオンデマンド）での開催となりました。それに関わらず、多くの高校生の参加があり、学生はボランティアとして活躍してくれました。相談・座談会では、参加者から通学やクラブ活動、アルバイト活動等について、多くの質問が上がり、それに対して3・4年生が自分たちの体験を丁寧に応えていました。



相談・座談会の様子

今回初めての企画である研究室紹介では、老年看護・学校保健の担当教員2名が日頃行っている教育や自身の研究について、高校生が入学後の学修のイメージがわくよう説明を行いました。また、入学後の看護演習の場面を想起できるよう日頃、学生が演習で使用している基礎看護実習室の施設を2年生が紹介してくれました。これらは現在HPで公開されています。是非ご視聴いただければと思います。（加利川真理）



新任教員紹介



在宅看護学・公衆衛生看護学 教授 岡田ゆみ

2021年4月に本学に着任しました。地域看護学（在宅看護・公衆衛生看護）を担当しています。慣れないオンライン授業や実習で気づけば夏になっていました。コロナ禍で学生の皆さんにお会いできる機会は少なかったですが、4年生の前期の臨地実習では、実習を通して学びを深めていく学生の姿を身近で感じることができて嬉しかったです。

私は、主にアルコール関連問題を研究として扱っています。これまでにはアルコール依存症者の回復支援に関する研究を行ってきました。依存症から回復していくことは容易な事ではありませんが、仲間や地域の人と共に回復されていく姿を見るといつもすぞいなと思います。

これから教育や研究を通して皆さんと学べることを楽しみにしています。

老年看護学 助手 品川祐子

学生のみなさん、先生方、職員の方々の支えがあり、本学に着任して5か月を過ごすことができました。心より感謝しております。学生のみなさんがコロナ禍での新しい学修方法に真摯に取り組まれている姿に日々励まされています。今を大切に、学生のみなさんとともに成長してまいりたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。



〒723-0053 広島県三原市学園町1-1
TEL 0848-60-1120 (代表) FAX 0848-60-1134 (代表)
✉ nskouhou@pu-hiroshima.ac.jp
URL <https://www.pu-hiroshima.ac.jp/soshiki/nursing/>



ご意見、ご感想など
お寄せください。

県立広島大学
Prefectural University of Hiroshima

発行：県立広島大学保健福祉学部看護学科／保健福祉学部保健福祉学科看護学コース 広報係